

# 令和元年度 事業報告

## I 概要

元号変更でスタートした今年度は、10月の消費税率引き上げの大きな波を超えたと思ったら、年明けからの「新型コロナウイルス」騒動が更に全世界を巻き込んだ大きな波となり、東京オリンピックの延期も決まり今後の展望が全くできないまま幕を下ろしました。このような1年間でしたが、四日市市シルバー人材センター(以下「当センター」という。)は、「生きがいと地域ニーズを結ぶ組織」を目指すという方針のもと事業計画の三つの目標値の達成に強いこだわりをもって運営してまいりました。

また年度を通じ、シルバー人材センターの理念「自主・自立・共働・共助」を遵守した業務運営を心掛け、第4次中期計画や令和元年度事業計画に基づき、理事会、各部会・委員会に諮りながら事業を進めました。

その結果、令和元年度事業計画の三つの目標値に対する実績は次のとおりでした。

項目	目標値	実績
会員数	1,570人	1,434人
契約金額	763百万円	814百万円
就業率	88.0%	86.8%

第4次中期計画の2年目となる今年度は三つの目標値のうち「契約金額」は目標を達成することができましたが、「会員」と「就業率」が目標未達となりました。「契約金額」は目標値を大幅に(約50百万円)上回りましたが、最大の課題とした「会員数」は目標値を大幅に下回り前年度末より減少する結果となりました。

令和元年度の主な取り組みは、次のとおりです。

### (1) 会員の拡大について

- ① 第4水曜日の「あさけプラザ」での入会説明会が定列入会説明会として定着したことで、事務局及びサテライトでの案内がスムーズになり、周辺地区役員の応援あるいは勧誘活動も安定しました。
- ② 前年の12月3日にオープンしたJR四日市駅構内のサテライトオフィスが本格的に稼働し1年間の来訪者は1,069人でした。入会に関心を持って来訪された方が237人で、内31人に随時入会説明会を実施し23人が入会されました。「ふれあいサロン」の名称で毎月開催されたイベントも会員拡大のPRとなり女性の入会に繋がりました。また、想定していなかった仕事の受注窓口あるいは会員の就業相談窓口としても機能しました。
- ③ 海蔵・四郷・水沢・羽津・神前・常磐の地区市民センターで地域入会説明会を開催しました。また、随時入会説明会も定着した業務の流れとなりました。
- ④ 入会説明会終了後、参加者全員に業務課員が個別面談し、希望職種の聴取とそれに合致した就業を紹介しました。その結果、説明会実施当月中の入会が倍増しました。(36%→52%)
- ⑤ 入会説明会に参加した人で、入会されていない人に、入会を勧める文書を郵送しました。また、一般市民の方で技能講習に参加された方にも同様の文章を郵送しました。
- ⑥ 入会のハードルを少しでも低くするため、次年度より初年度の年会費を2,400円→1,000円と引下げ、互助会費1,200円と合わせて2,200円とすることにしました。
- ⑦ 退会の抑制として会費未納会員への対応にも更に注力しました。請求を経て未納が確定する9月から宅訪と電話による状況確認を開始し、3月末まで継続的に実施しました。

## (2) 就業機会の確保について

- ① 全会員を対象に会員状況調査票を送付、回収することにより登録されているデータの更新をしました。会員が有する資格・能力と就業希望を洗替しました。意見等は会員台帳のカルテに入力しマッチングの参考としました。
- ② 就業機会創出委員会のメンバーが、住まい近隣の未就業者を宅訪し、状況確認と就業希望等を聴取し事務局へフィードバックしました。この情報も会員台帳のカルテに入力しマッチングの参考としました。
- ③ 銀行・商工会議所等の諸行事に理事長が参加して新規の発注先を開拓するとともに、事務局長・次長・課長は既存発注先との関係を強化するため契約事業所へ積極的に訪問しました。
- ④ 入会説明会で個別面談しているため新規入会者と業務課員が親しくなっており、来所・相談に対する抵抗が少なく頻度も高くなるので、就業までスムーズに進み早期就業に繋がりました。
- ⑤ 新規入会者研修終了後に未就業者に対して業務課員が積極的に個別面談をしました。ここでの面談も早期就業に繋がりました。
- ⑥ マッチング担当者の丁寧で積極的な仕事ぶりが、会員・発注者双方からの信頼を更に高めることになり、就業機会の確保に繋がりました。

## (3) 安全・適正就業の推進について

- ① 新型コロナウイルス対策で1回中止したものの安全委員会を毎月開催し、事故発生の把握、安全適正就業推進大会の開催、パトロールの実施、各種講習会の開催、安全標語の募集、街頭啓発等計画通りに実施しました。また、健康診査の促進にも努めました。
- ② 新安全委員長のもと各職群の班長が安全リーダーとして、各職域での安全就業の推進に取り組みました。また、その取り組みを全職群で共有するため、拡大安全委員会を開催しました。
- ③ 事故報告があると業務課長が自分の目で現場を確認し、原因を追究した上で「速報 安全就業だより」を作成し、再発防止に努めました。また同じ会員が続けて事故を起こしたケースでは安全委員会へ呼び出して徹底的な原因究明と猛省を促しました。
- ④ 「起きた事故」だけではなく、作業現場からの「危険」という声にも耳を傾け、現場を確認して担当部署に報告し改善を求めました。
- ⑤ 現役時に企業で教育・訓練を受けてきた会員が講師となっており、初めてKYT(危険予知訓練)の勉強をしました。
- ⑥ 形骸化していた「ヒヤリ・ハット体験報告」を見直し、各職群に対し体験共有の徹底に努めました。
- ⑦ チェーンソー講習(伐木等の業務特別教育・特別教育補講講習会)を外務講師を招いて実施しました。
- ⑧ 常に就業状況をチェックし、働き方が、請負あるいは派遣に合致しているか検討しています。特に派遣先に対しては総務課が「働き方改革」の一環として「同一労働、同一賃金」の視点で発注先を訪問して労働条件の情報を聴取と改善要請をしました。

## (4) 地域活動の充実について

- ① ブロック会議に事務局長・次長・課長が担当ブロックを分担して参加し、当センターの運営状況や課題を共有化するとともに、各地区の状況、課題等について情報交換しました。
- ② 班長会議を全地区で開催し、ブロック会議での議論を各地区で共有化するとともに、地区内の状況、課題を話し合い、会員の拡大に向けて会員間の連携強化に努めました。
- ③ 今まで3月中旬に開催されていた地区長・班長全体会議を心機一転する4月に変更しました。確定した実績に基づいて事業報告をし、その結果への対策となる事業計画の説明と会員代表への協力要請という一連の流れで説明が出来るからです。

#### (5) 情報発信の強化について

- ① 「虹の橋」(年2回発行)、「センターだより」(年3回発行)を会員向けに発行し、また、ホームページからでも見れるようにしたことで、当センターの活動をより多くの人に、より深く知ってもらうことができるようになりました。
- ② 例年通り春のエキサイトバザールや夏の大四日市まつりに参加することで、広く市民にPRをすることができました。また、会員拡大のため、互助会や女性部に協力を求め、フェスティバル・ふれあいクッキングを会員でない方とのふれあいに重点を置いた企画にしたことにより、多くの一般市民が参加され、PRにつながりました。
- ③ 市役所を通じたPRとして、市の広報誌に入会説明会・イベント等の案内を掲載しました。また、市民課や地区市民センターの窓口にPRが入った封筒(有料)を置いてありますし、すべての地区市民センターのパンフレットスタンドを活用してPRしました。
- ④ 「四日市ホームニュース」は月に2回隔週の土曜日に発行され、1回は入会説明会とイベントの案内を広告として掲載し、1回はセンターの行事を記事として掲載してきました。2年が経過し、記事としての掲載は益々紙面が広くなり、特集として2回に亘ってシルバーを大きく紹介してもらいました。入会説明会を知るきっかけとして定着してきましたので、次年度もこのパターンを継続します。また、年2回発行の四日市市老人クラブ連合会の機関紙「四老連いきいきだより」にも引続き広告を掲載しました。
- ⑤ 9月と10月にはFacebook広告をしました。9月は「会員募集」の案内を60歳以上の男女に、10月には「ピッコロ」の案内を幅広い年齢層の女性に訴求したところ、想定以上のホームページへのサイト誘導(9月は784件・10月は1,055件)がありました。
- ⑥ 地元のケーブルテレビでイベントを放送してもらうとともに、FMラジオでも月1回「シルバー人材センターからのお知らせ」というコーナーを設け、センターの職員が時季に応じた話をさせていただくなどマスコミを利用しての情報発信に取り組みました。
- ⑦ JRのサテライトオフィスで「サテライトふれあいサロン」を10回開催しました。笑いヨガ、着物の着付け、絵手紙、手作り教室等の参加者と会員の交流を通してPRが出来ました。
- ⑧ 他団体が行う事業に協賛し行う普及活動として、「親のこれから大相談会」にブースを出展しました。来場者はもとより出展企業38社の方にシルバーのPRをしました。

#### (6) 情報収集の強化について

- ① 当センターのことを職員・会員がよく知ること。どのくらいの規模で、全国で1,331あるセンターでのポジションを前年との対比で示しました。会員数は全国90位(▼2ランク)、契約金額は全国68位(△1ランク)でした。会員数・契約金額の全国ランキングが想像以上に上位であること、当センターは契約金額は順調に推移しているものの、会員数は多くのセンターと同様に増加に苦慮していることを理解してもらいました。
- ② 会員のことを職員がよく知ること。前年度末に送付した「会員状況調査票」を回収しました。入会時よりそのままになっていた緊急連絡先等の基本データの修正をしました。資格・免許等を洗替し、ご意見・ご要望については会員データのカルテ欄に詳細に記録し今後の就業紹介に活用できるようにしました。
- ③ 他のセンターのこともよく知ること。2月20日～21日、大阪府の箕面市と門真市のシルバー人材センターへ視察研修に行きました。当センターと同規模で会員数・契約金額を伸ばしている点とホームページ・広報誌等で「楽しさ・明るさ」を醸し出している点で選びました。箕面市は入会のハードルを下げて入会者を増やす手法、門真市は入会のハードルを上げて退会者を減らす手法と全く逆の取組について学びました。そして何よりも現地を訪れたことで両センターの職員・会員の「活気」に触れられたことが最大の収穫であったと思います。また、前年度に視察研修をした埼玉県草加市と千葉県柏市のシルバー人材センターとはゴールド会員制度等について継続的に情報交換をしており参考にしています。県内のセンターとは新規入会時に徴収する年会費等について情報交換をし当センターの初年度会費を改定する参考としました。

令和元年度の取り組みを通して、次のことが課題になってきました。

- ① 「人手不足」「必要な老後資金不足」が騒がれている状況で、種々のPR手法で認知度向上に務めましたが入会者数は伸び悩みました。サテライトオフィスで見られるハローワークからの流れを見ると仕事を探している人はたくさんいるのですが、シルバーの補助的収入では入会動機にならず、雇用延長が定着し65才まで働かれ自由な時間を持った人の入会動機にもならなかったものと思われれます。しかし、まだまだシルバー人材センターという選択肢をご存知ない人もたくさんみえると思われるので、如何にして知ってもらい、シルバーの扉をノックしてもらうことに注力しました。入会説明会参加者には業務課員がマンツーマンで話を聞き、仕事の紹介をしました。従来にも増して「仕事がある」→「会員になる」という流れと、「利便性」と「スピード」を重視した対応で入会の専決承認が増えましたが、もう少し量的な拡大が必要で、更なるPRの必要性が課題として残りました。
- ② 「未就業会員」が「会費未納者」になって退会する人数割合は今年度も同様で集計を始めて4年間全く同じ傾向を示しています。一方で「就業会員」で「会費納入者」でも、「他で仕事が決まったから」という理由で短期間で退会されるケースが多かったように思います。当センターは年々高齢化が進み年齢による肉体的な衰えと健康を理由に退会される人が増えるのは明らかでありこの人たちに継続を勧めることはできません。また、「他で仕事をしている人」はシルバーの会員でいる必要がありません。このような流れで次年度も退会者が増加する傾向になると思われます。課題は「仕事を探している未就業者」を見極め、素早く、きめ細かく対応し少しでも退会する会員を減らすことです。
- ③ 10月に消費税率が上がり、4月の就業分からは事務比率と最低賃金の上昇に伴い配分金が上がります。11～12月にかけて発注先の企業と交渉してきました。「人手不足」「働き方改革」という企業にとって避けられない条件の下では当方からの申し出に同意する以外なかったと思います。このような交渉に一抹の不安を感じていました。そうしたところ令和2年度は「新型コロナウイルス」の終息も見渡せない最悪の状況でスタートします。経済的な打撃は2008年のリーマンショックと比較にならないほど大きなものとなり、ほとんどの発注先が大きな痛手を受けることは十分想像が出来ます。そうなると値上げの交渉どころか契約の継続すら危うくなると思います。発注先の期待・要望に十分応えているか見直す必要があります。

これらの課題に対処するために、次年度も引続き入会者を増やすために ①『当シルバーの認知度向上』 ②『入会希望者への利便性向上』を、退会者を抑えるために ③『会員の声を聞く組織』の三つを主要なテーマとして事業に取り組んでいく方針です。

これらの事業を推進していくためには組織に安定と活性化が必要です。

「明るさ」と「元気」が会員と事務局に求められる課題であり、チャレンジだと思えます。

令和元年度の主な実績は次のとおりです。

項 目		令和元年度	平成30年度	対前年度比 (%)		
会員数	男 性 ( 人 )	955	980	97.4		
	女 性 ( 人 )	479	485	98.8		
	計 ( 3月31日現在 )	1,434	1,465	97.9		
就 業 状 況	受託件数 (件)	請負・委任	公 共 市 役 所	514	420	122.4
			公 共 そ の 他	289	304	95.1
			民 間 事 業 所	3,750	3,788	99.0
			一 般 家 庭	8,261	7,943	104.0
			介護保険事業	756	829	91.2
			総合事業(サービスA)	898	680	132.1
			上 記 以 外	6,607	6,434	102.7
			独 自 事 業	36	41	87.8
	小 計	12,850	12,496	102.8		
	派 遣 事 業	433	333	130.0		
合 計	13,283	12,829	103.5			
就 業 実 人 員 (人)	請 負 ・ 委 任	1,141	1,207	94.5		
	派 遣 事 業	103	88	117.0		
	合 計	1,244	1,295	96.1		
就 業 延 日 人 員 (人)	請 負 ・ 委 任	140,375	143,105	98.1		
	派 遣 事 業	10,576	9,082	116.5		
	合 計	150,951	152,187	99.2		
就 業 率 ( % )	86.8%	88.4%	98.2			
配 分 金 及 び 賃 金 ( 千 円 )	654,085	639,111	102.3			
契 約 金 額 (千円)	請負・委任	公 共 市 役 所	231,663	205,119	112.9	
		公 共 そ の 他	122,018	127,868	95.4	
		民 間 事 業 所	254,520	264,237	96.3	
		一 般 家 庭	141,333	137,672	102.7	
		介護保険事業	17,184	19,236	89.3	
		総合事業(サービスA)	5,945	4,337	137.1	
		上 記 以 外	118,204	114,099	103.6	
		独 自 事 業	513	655	78.3	
	小 計	750,047	735,551	102.0		
	派 遣 事 業	63,942	54,033	118.3		
合 計	813,989	789,584	103.1			

## II 主な活動状況

### 1 会員の拡大

#### (1) 会員の入・退会

##### ① 入会説明会

(単位:人)

説明会の種別	参加者数	当月入会者数
センターでの入会説明会	132	65
あさけプラザでの入会説明会	90	42
地域入会説明会	17	7
随時入会説明会	26	24
合計	265	138

##### ② 地域入会説明会

(単位:人)

開催日	会場	参加者数	入会者数
7月12日(金)	海蔵地区市民センター	3	1
7月19日(金)	四郷地区市民センター	3	3
7月26日(金)	水沢地区市民センター	0	0
10月4日(金)	羽津地区市民センター	6	3
10月11日(金)	神前地区市民センター	3	2
10月25日(金)	常磐地区市民センター	2	1
合計		17	10

##### ③ 会員数の推移

(単位:人)

年度	説明会参加者	入会者	退会者	年度末会員数
平成27年度	278	158	218	1,447
平成28年度	251	177	173	1,451
平成29年度	244	159	175	1,435
平成30年度	281	181	151	1,465
令和元年度	265	170	201	1,434

#### (2) 会員の資質向上

##### ① 新規入会者研修を開催し、接遇マナー・各種ハラスメント・安全就業について注意喚起をしました。

(単位:人)

開催日	参加者数
4月17日(水)	27
6月28日(金)	20
8月27日(火)	30
10月29日(火)	15
12月17日(火)	12
令和2年 2月28日(金)	16
合計	120

## 2 就業機会の確保

### (1) 会員状況調査票により登録データの更新と就業に対する要望等を収集

調査対象	対象者数(人)	回答者数(人)	回収率
入会して1年未満の会員を除くすべての会員	1,246	1,033	82.9%

### (2) 独自事業(パソコン教室)の推進

開催回数	34
------	----

### (3) 高齢者活躍人材確保育成事業

公益社団法人三重県シルバー人材センター連合会が実施する技能講習と就業体験を、会員の拡大に活用しました。

高齢者活躍人材確保育成事業 技能講習・就業体験・セミナー (市内開催分)		
講習名	実施日	受講者数(人)
育児サポーター技能講習	7月1日～7月10日	6
シニアのための防災セミナー	11月22日	18
剪定補助就業体験	1月20日	4
合計		28

## 3 安全適正就業の推進

### (1) 安全委員会の活動

① 安全適正就業推進大会を7月7日(日)に勤労者・市民交流センター多目的ホールで開催しました。子育て班から経験発表を、四日市自動車学校の高齢者講習指導員から「高齢者の交通安全について」というテーマで講演をしていただきました。

② 安全就業啓発事業として、会員から安全標語を募集し、優秀作品を安全適正就業推進大会で発表・表彰しました。

応募が48点あり、安全委員会で最優秀作品1点、優秀作品2点、入選3点を選び、最優秀作品はセンターや公共施設の入り口に掲示した他、就業報告書等に印刷し会員への安全啓発に利用しました。

最優秀作品 「決めたこと 守るあなたが 守られる！！」

③ 春と秋の交通安全運動に合わせ、イオン四日市尾平店とイオン四日市北店で交通安全運動のパンフレットと一緒に会員募集のパンフレット配布し、シルバーの活動をPRしました。

④ 平日の夜間と土日祝祭日の緊急連絡先を広報誌にて継続的に会員に通知しました。2年間が経過し、かなり浸透してきたようですが更なる周知に努めます。

### ⑤ ヒヤリ・ハット推進状況

項目	令和元年度	平成30年度
体験事例報告件数	24	1

⑥ 事故の発生状況

(単位:件)

項目	年度	令和元年度	平成30年度
傷害事故		14	10
	住居と就業場所との移動中	1	3
	就業中	13	7
賠償事故		5	13
	草刈機の飛び石等	4	9
	その他	1	4
車両事故		2	1
合計		21	24

(2) 健康づくりの推進

- ① 会員の健康への自覚を高め、健康診断受診を促進するため、受診の有無をセンターに報告する取り組みを本年度も行いました。

項目	令和元年度	平成30年度
送付数	1,451	1,459
回答数	601	617
回収率	41.4%	42.3%

4 就業能力の向上

職群班ごとにテーマを決めて取り組んだ研修の実施状況は次のとおりでした。

職群班	研修内容
生活支援	提供するサービスの質を向上するため、「生活110番事業」と連携して生活支援サービス班長会議を2ヶ月に1回開催しました。除草班の全体会議、安全就業等の講習に出席して得られた就業上でのリスクについて、班長会議のメンバーや就業される会員に対して啓発することで意識の向上を図りました。
介護	訪問介護(介護保険)事業では、要介護、要支援状態にある高齢者に対して適切な訪問介護を提供できるよう、介護ヘルパーリーダー会議とヘルパー勉強会を毎月開催し業務の連絡調整と知識・技能の向上を図りました。また、「接遇マナー」「救急処置AEDの対応」「笑いヨガ」「生前整理」の勉強会を開催しました。
子育て	年に2回全員参加の研修会を開催し知識・技能の向上を図りました。内1回は外部講師を招き、今年度は「虐待対応の現状と里親」というテーマで研修を受けました。「育児サポーター技能講習」を当センターで開催し、受講された6名のうち4名が入会されました。
剪定	林業・木材製造業労働災害防止協会が主催する「チェーンソー講習会」に除草班を含む47名が参加し、技能と安全意識の向上を図りました。
除草	技能向上と安全作業の徹底を図るため、「刈払機安全取扱講習会」を実施し、11名が受講しました。

## 5 普及啓発の推進

イベント・ボランティア活動等の機会をとらえて、次のとおり普及啓発に努めました。

啓発活動	実施日	場所	参加者数
エキサイト四日市・バザールへの出店およびパンフレットの配布	4月6日、7日	諏訪新道周辺	50
春の全国交通安全運動の啓発活動でパンフレットを配布	5月14日	イオン四日市尾平店、四日市北店の店外	56
大四日市まつりの「おどりフェスタ」へ参加	8月3日	三滝通り周辺	35
大四日市まつり後の清掃ボランティア	8月5日	諏訪新道周辺	26
「親のこれから大相談会」へブースを出展	9月1日	勤労者・市民交流センター	7
秋の全国交通安全運動の啓発活動でパンフレットを配布	9月24日	イオン四日市尾平店、四日市北店の店外	73
三重県シルバーの日	9月1日～11月17日	各地区27ヶ所	525
地域ボランティア	随時	各地区23ヶ所	607
清掃ボランティア	12月12日	近鉄四日市駅周辺	118
三シ連普及啓発活動	1月21日	日永カヨーショッピングセンター	14
清掃ボランティア	3月12日 (新型コロナウイルスにより中止)	南部丘陵公園	

## 6 財政基盤の確立等

法人の運営状況を詳らかにするため、予算の執行状況を毎月理事会に報告するとともに、定款の規定に基づき理事長・副理事長・常務理事の職務執行状況を理事会に報告しました。

市に当センターの経営状況等を説明し、補助金の確保にも努めました。

## 7 組織の強化等

### (1) 地域班活動の充実

今年度も、ブロック会議・班長会議を開催し、当センターの運営状況を伝えるとともに、会員拡大への協力依頼、地域の課題整理などの取り組みを進めました。

項 目	令和元年度	平成30年度	平成29年度
ブロック会議	11	14	16
班 長 会 議	61	61	64

### (2) その他の取り組み

理事会をはじめ各部会・委員会、女性部の活動の充実に取り組むとともに、会員互助会と連携を図り、会員拡大等当センター発展の視点を共有した活動を進めました。

## 事業報告の附属明細書について

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する、附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。